

京土会「学生・若手会員研修助成基金」報告書

申請者情報

申請年度・回 令和 7 年度第一回
氏名 宇野大輝
所属・学年 工学研究科 社会基盤工学専攻 空間情報学講座・M2
渡航先 インドネシア マカッサル

活動報告

ACRS2025

2025 年 10 月 27 日～10 月 31 日にインドネシアのマカッサルで開催されたリモートセンシングの国際会議である ACRS2025 に参加し、口頭発表を行った。この学会は、アジア最大のリモートセンシングに関する国際会議であり、リモートセンシング技術やその活用に関する最先端の知見を収集することができる。私は、10 月 27 日に” General Remote Sensing” というセッションにて” Refractive-Aware Gaussian Splatting for Geometrically Accurate and Photorealistic 3D Reconstruction of Bathymetry from Aerial Imagery” というタイトルで口頭発表を行った。初めての学会発表であり、発表や質疑応答の受け答えのスムーズに課題を感じたが、セッション後にも企業のマネージャーの方と用いている最新技術に関して民間での取り組みを例に議論することができた。最新技術と既存の課題を結びつけ解決する手法に関して高い評価と激励を頂き、非常に自信になった。また聴講では私と同じ Photogrammetric Bathymetry の研究に取り組んでいる研究者と互いの研究を紹介しあい、検証データの相互提供を約束できた。

ISPRS SC Summer School

学会終了後の 2025 年 11 月 1 日～5 日は、ISPRS Student Consortium と Hasanuddin 大学の協力で開催された Summer School に参加した。恥ずかしながら個人的に Remote Sensing に関して初めて体系的に学習する機会が、様々な手法や一般的な考え方を整理することができた。実習では、マルチスペクトルドローンを用いた農業解析を行い、植生指数を算出するワークフローを一から経験し、GIS ソフトウェアの使い方と強みのイメージができた。また、研究のための論文検索の方法を体系的にレクチャーしていただいた。自分でも必死になって取り組んでいたところだが、よりエレガントでシステムチックな方法論を知り、感銘を受けた。講師であり、ISPRS SC の President である Laxmi は、彼女もまたイングランドの大学に在籍する PhD であり、自分の研究活動に加え年に何度も企画されるイベントや出版に全て携わるなど、そのバイタリティの



図1 ACRS2025での発表の様子



図2 Summer Schoolでの一場面

高さや生き方から、新たな視点を教えてもらった。参加者には、インドネシアの学部生も多数参加していたが、彼らのスキル、学習速度の速さに何度も驚いた。卒業までにプロフェッショナル用途のソフトウェアを最低2つはマスターすることが彼らの卒業条件らしい。フィールド、実務主体でどんどん自分の知識として吸収していく観点をより大事にしようと思った。最終日にグループ発表を行ったが、準備期間が半日しかないにも関わらず、完成度の高い発表が完成した。完璧にこだわらずどんどん手を動かし、物事を前に進める姿勢が浸透しているからこそそのクオリティを感じた。

おわりに

このたび申請者の海外研修にご助成いただいた京都大学土木会に深い感謝の意を表します。